

待降節によせて

校長 Sr.大山 江理子

校庭の木々の紅葉も進み、毎朝ソフィアバラホールの前を児童が登校してくるときには赤や黄に色づいたサクラの葉がたくさん落ちています。息が白くなる日も、背中を朝日に照らされながら、子どもたちは元気に坂を上っています。冬の訪れが感じられます。

カトリック教会では12月1日日曜日から待降節に入りました。クリスマス、イエスのご降誕を「待つ」期間の始まりです。学校ではウィッシングに向けての練習や準備も始まっています。プラクティスを行ってイエスをお迎えするよう心を整えます。プラクティスは心の準備です。イエスの誕生という大きな恵みの時までどのように過ごしていくか、大きな恵みを「待つ心」をプラクティスで整えていきます。

「心」は人間にとり、とても大切なものです。聖心はイエスのみこころを大切にし、イエスの心に向けて、私たちも心を込めて祈り、学び、人と関わる学校生活を送ります。私たちの心がイエスのみこころに向けて変えられていくことを願うことでもあり、これは創立者聖マグダレナ・ソフィアから受け継いで、聖心女子学院が指すものです。イエスのみこころを大切にすることを教える、カトリック教会の中でも深い伝統のあるものです。

この10月24日に教皇フランシスコはイエスのみこころについて重要な文書を発表されました。原題はラテン語で「Dilexit Nos」、邦題はまだ試訳の段階ですが、「主はわたしたちを愛された」という題名です。この文書は「回勅」と呼ばれる全世界に向けた教皇からの手紙にあたるものです。この中で、教皇フランシスコは人間の心を探究し、イエスのみこころの大切さ、その愛について書いています。心が人のあらゆる活動を繋ぎとめている要であり、心によって人と真実に関わり、イエスの愛と結ばれているとしています。そして、聖心会の文書も引用されました（150項）。聖心会は修道会として会憲において、会の目的や目指す方向性、会員をまとめるための条項などを示していますが、今回の引用はその会憲の中でも教育活動によりイエスのみこころに奉仕する方針を示している、会員としても大切にしている一節で、次の部分です。「イエスの心に燃えている愛に捉えられて、私たちは、人びとが、人間として、神の子としての尊厳において成長するように努めます。それは、福音と、福音の求めるところに根ざした人間育成です。福音が求めるのは、愛でありゆるしであり正義なのです。また、貧しい人たち、かえりみられない人びとと

かたく結ばれることなのです」（会憲7より一部）。

今回教皇フランシスコにより、聖心会のイエスのみこころとのつながりの深さを改めて見いだされたことはとても喜ばしいことです。子どもたちと共に心の大切さを深く受けとめ、待降節に心豊かな学校生活を作っていきます。

12月の行事予定

2日(月)	ハイチデー	13日(金)	大掃除
6日(金)	1st ゆりの行列	16日(月)	午前授業
9日(月)	2nd ゆりの行列	17日(火)	クリスマスウィッシング
10日(火)	面談日・午前授業	18日(水)	信者静修会(AM)
11日(水)	面談日・午前授業		

※1月9日(木) 新年の祈り／授業開始

手作りのゆりの花を捧げて

副校長 中塩 百合

秋は、行事が目白押しです。特に宗教行事は、10月20日の「感ずべき御母の祝日」から始まり、11月18日の「聖フィリピン・デュシェーンの祝日」、12月8日の「ゆりの行列」、そして12月17日の「クリスマス・ウィッシング」と4つの行事が続きます。授業の関係等で祝日当日に行事ができないときもありますが、1つ1つの行事の意味を考えながら毎年必ず皆でお祝いをします。



今、教える授業では、「ゆりの行列」に向け各学年でゆり作りが行われています。「ゆりの行列」は、カトリック教会で行われている「無原罪の聖マリア」の祝日です。マリア様の心の美しさを称え、倣うよう祈ります。ステージごとにゆりの行列の祝い方は違いますが、ファーストステージの子どもたちは、真っ暗な中で蝋燭に照らされた美しいマリア様に自分たちが心を込めて作ったゆりをお捧げします。どんな状況であっても、いつも私たちの心が清くあるように、誠実な心でいられるようにと祈ります。

初等科では1年生から毎年ゆりを手作りしているので、5、6年生になるとあっという間に完成しますが、1、2年生は大変です。あちらこちらから、教師を呼ぶ声が上がります。さすがに3年生になると、友だち同士で助け合いながら作り上げ、できあがったゆりの花を前に皆笑顔になります。以前、本校を卒業した3姉妹の末のお子さんが、家には3人の作ったゆりの花が花瓶に挿してあると教えてくれました。きっとお母様が6本×3人分の18本のゆりの花を大切に飾ってくださっているのでしょう。1本1本にそれぞれのお子さんの育ちを感じていらしたのかもしれませんが。小さなひと工夫ではありますが、お子さんにお母様の思いがしっかり伝わっていると、心が温かくなったことを思い出します。

師走に入りさらに慌ただしい毎日となります。合理的であることも必要ですが、「タイパ」を求めるだけでなく、ちょっとした手間ではありますが、時にはお子さんとゆっくり向き合う時間やお子さんのことを思って遣う時間を生み出すと、子どもにもその心が伝わり互いに豊かな気持ちになるのではないのでしょうか。「魂を育てる」のは、なかなか難しいことですが、日々の少しの意識の積み重ねが大事と、ゆりの花を眺めながらあらためて感じました。



今年のクリスマス・ウィッシングのテーマ

The Journey from I to We

ゆりの行列 クリスマス・ウィッシングのプラクティス
「歩みより、分かち合おう ～イエス様と共に～」

*喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます
荒木 郁代 教諭、廣瀬 友里恵 教諭、松澤 一仁 教諭、森 勇介 教諭